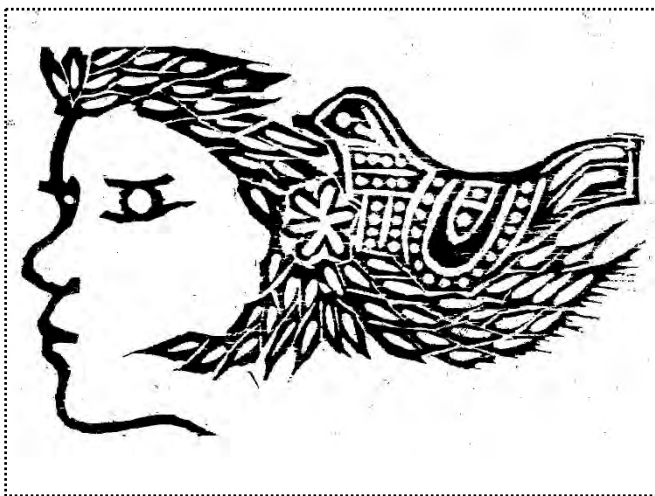


戦争と平和について思うこと

志村 喜八

私は1940年山形県の田舎生まれで、戦争のことはあまり肌で感じることはありませんでした。停電が多くそのためにランプをつけることが私の役でした。また食事は田舎でも米を食べることはなく、芋、大根、そして雑炊が多かったのです。

戦争の恐ろしさを知ったのは、東京に集団就職し夜間高校に行ってからで、山岳部に入ってテントの中で政治談議などをしながら知ることが出来たと思います。それまでは、広島、長崎の原爆もよく知らずにいました。そして市民大学、ところざわ倶楽部サークルを通して議論し、より今日の社会や政治のあり方、戦争について考えるようになりました。



平和を象徴する鳩をイメージした私の版画です。

最近特に感じることは、憲法9条を変えようとする動きがだんだん大きくなっていることです。9条には戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認などが明確に書かれています。何故変えようとするのでしょうか。自衛隊の活動を強化することが国を守ることになるのでしょうか。戦争はしない、やってはいけない。そのためには9条を積極的に活かして、多くの国と平和的な外交を進めることが重要と考えます。アメリカの抑止力に比べるという建前で、5兆円を超える膨大な税金を使って予算を組み、人を殺すための武器をアメリカから買っています。

日本は先の戦争で生活をズタズタにされただけではなく、多くの人の命を奪われたことを自民党の方は知らない訳はないと思いますが…。それでも憲法を変え、戦争への道へ突っ走ろうとすることに対して強い怒りを感じています。また自民党は、思想の自由を侵害する秘密保護法や共謀罪だけでなく、安保法制の強化、不平等な日米地位協定など自国民のことよりアメリカのことしか考えてないようでなりません。安保条約はアメリカ政府に通告することによって廃棄することが出来るのです。

自民党は口では国民の気持ちに寄り添うと言いながら、国民の声を無視する強権政治をすぐに止めて頂きたい。国民が望んでいない政治に対し、声を大にして「平和を守り、安心できる生活」を皆の力で築こうではありませんか。